

こども防災マップクラブ

応募チーム名：まびケア運用チーム

(特徴)

小学校でプログラミング教育が必修化されることをふまえ、プログラミング教室やロボット教室が増加傾向にあるものの、そもそもプログラミング教育が目指すビジョンが曖昧であるケースが多い。そこで、本アイデアでは、平成 30 年豪雨被災地の地理空間情報を集約したプラットフォーム「まびケア」を活用し、地域防災をテーマに地理情報システム

(GIS) の学びを通じた、こどもたちの情報活用能力の育成を目指す。

プログラミングスキルの習得にとどまらず、地域活動への参画を通じた学習機会の提供により、スキル習得の意義や価値をこどもたちに実感してもらうことを目指す。



(アドバイス)

1. 教育機関との連携

地域の小中学校や高校など、教育機関関係者との連携を深め、「まびケア」を用いた情報活用能力の育成を、地域学習の一環として実施するなど、アイデア実行の成功事例を積み重ねていくことが有用でしょう。平成 30 年豪雨被災地である倉敷市真備地区で、チームの皆様が活動を続けてこられた GIS 支援活動に、こどもたちを巻き込むことから始めることも良いでしょう。その際、地元の小中学校の関係者との連携にも期待します。防災マップづくりへの関心が高い教員らと協力して実施することは、「まびケア」を用いた教材作りを進める上でも有用でしょう。また、こどもたちを含めた多様な方々がマッピングに参加することで、「まびケア」がより厚みのある知識の蓄積プラットフォームとなりうるほか、地図データを扱うことができる地域の担い手の養成という副次効果も期待できます。

2. アウトカムの明確化

継続的運用を基盤とした実績の積み重ねがあることから、「まびケア」を巡っては、様々な応用可能性が広まってきていると思います。本アイデアの実現によるアウトカムは何か、もう一度整理されてはいかがでしょうか。その中では、プログラミング教育への教材提供や、地域防災活動への貢献など複数の軸から検討を重ねて整理することも良いでしょう。また、こどもたちにとってのアウトカムは何か、地理情報プラットフォーム「まびケア」としてのアウトカムは何か、地域防災としてのアウトカムは何かなど、複数の主体や視点による目的・目標の考察も有用と考えます。

3. 横展開への期待

ユースケースの積み重ねや教材づくりは、倉敷市以外の地域への横展開の可能性につながるでしょう。地域防災とこどもたちの情報活用能力の育成は、どの市町村にも共通の課題をテーマであることから、本アイデアの実績を積み重ね、将来的には、地域密着型の情報教育の先行事例として全国へ発信することを目指してはいかがでしょうか。そのためにも、上述したユースケースの積み重ねや教材づくりの徹底のほか、関心のある県内外の教育関係者との横のつながりの形成にも期待いたします。

4. 市役所への期待

情報政策や教育、防災など、組織の枠組みを超えた連携が求められるアイデアであることから、市役所内での部署間の連携を含め、多様な関係者の巻き込みなど市内の多様な取り組みの相乗効果を生むための連携のサポートに期待します。